足立史談
第696号
2026年2月15日
足立区立郷土博物館内
足立史談編集局
〒120-0001
東京都足立区大谷田5-20-1
TEL 03-3620-9393
FAX 03-5697-6562

もくじ

千住の酒合戦に由来する掛け軸　谷文晁「酒宴図」…P1　アヤセカメラコレクション2　綾瀬駅のあゆみと路線の変化…P3　足立二丁目庚申祭・二〇二五…P4

新収蔵資料紹介・

千住の酒合戦に由来する掛け軸
谷文晁「酒宴図」

小林　優

郷土博物館では、酒井抱一や谷文晁といった地域ゆかりの絵師たちに対する調査を続けています。その調査は、地域の各家々の伝来資料や記録に対する検証を基本としつつ、各地に所在する美術作品の情報を広く持つ古美術商の方々からも適宜情報を集め、知られざる地域ゆかりの作品の探索も行っています。

そして令和五年（二〇二三）、古美術商の保管する作品を調査する過程で、千住の酒合戦に由来する谷文晁の作品「酒宴図」（図1）が新たに発見され、令和七年、郷土博物館の所蔵となりました。そこで今回は、この新発見の地域ゆかりの美術作品「酒宴図」について紹介します。

■「酒宴図」の概要　「酒宴図」は、縦一三四・二センチ、横三一・〇センチの画面に、多くの人々が振る舞われる酒を飲んで楽しむ様子を描いた一幅の掛け軸です。画面右上に高い台に乗せられた大きな酒樽があり、呑み口（酒を出すための口）から流れ出た大量の酒がその下の大釜で温められて、釜の側に立つ人物が客の盃に柄杓で注いでいます。そして、温めた酒を湯桶（ゆとう）に入れて大勢の客に振る舞い、客たちがその酒を楽しむ様子が描かれ、最下段では場面が変わって、馬を引いてやってきた人物と、酒宴に誘っているのか、それを迎えて右側を指さす人物が描かれています。

不思議な酒樽から注がれ続ける酒を楽しむ人々の群像図であり、その左上にはこの図に合わせた狂歌「酒呑めば　いつも心は春めきて　借金取も鶯の聲」が文晁の筆で記され、「文晁酔書（朱文重郭方印「画學斎印」）」の署名が付されています。なお、この「酒呑めば」の狂歌は文晁の創作によるものではなく、古典落語「穴どろ」にも登場するなど江戸時代当時から広く知られていた狂歌であり、本図の内容に適合するものとして文晁が選定して、画賛として添えたものと見られます。

また本作では、狂歌の下に記された署名の他にもう一か所、酒樽の表面に「文」の字と、「晁（ちょう）」の音と通じた「蝶」の絵を描くことで「文晁」とする署名（図2）が記されており、文晁の洒落と遊び心を垣間見せます。

■千住の酒合戦との関係　一見するとユーモラスな酒宴の風景を描いた一図ですが、本図には元となる図像が存在します。それが、文化十二年（一八一五）に千住宿で行われた千住の酒合戦の記録絵巻「高陽闘飲図巻」（こうようとういんずかん）中

図1 谷文晁「酒宴図」
文化14年(1817)以降　紙本淡彩
当館蔵